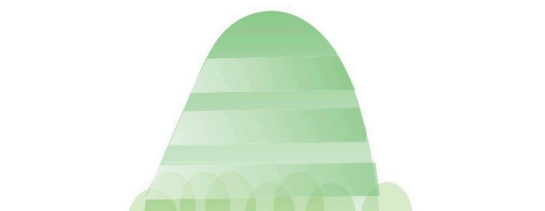


# (仮称)国際センター駅北地区複合施設基本計画 実施方針

## ●設計の理念と考

「杜」の風景を守ります

多種多様なイベント・地域イベントの活性化



仙台市民がとても大切にしている「杜」の風景を守る計画を提案します。広瀬川や青葉山の風景に呼応するように、緑をまといながら緑が連続する建物をつくります。

多種多様なイベントが開けるようにフレキシブルな空間づくりをし、既存の地域イベントや新たなイベントが生まれ、地域イベントの活性化ができる計画とします

さまざまな表現をする人々が集まる場所をつくります

災害の記憶をめぐり未来を思い描く場所をつくります

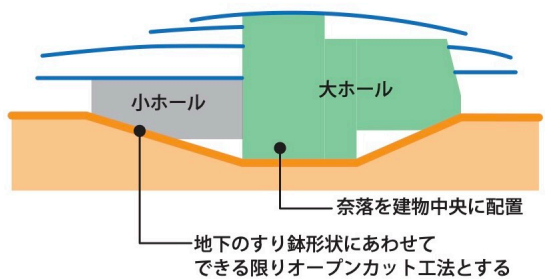


さまざまな人々が集まり、交流し、色々な場所で表現できる場所をつくります。

災害の記憶をめぐり、今の仙台にふれ、未来の仙台を考えられるような計画とします。

## ●コスト削減に関する提案

### イニシャルコスト削減提案



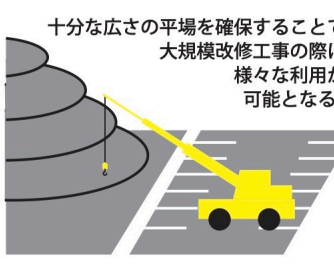
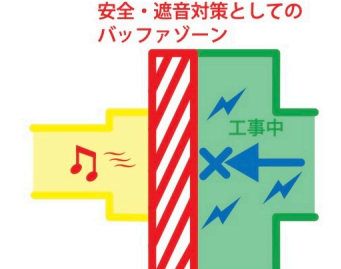
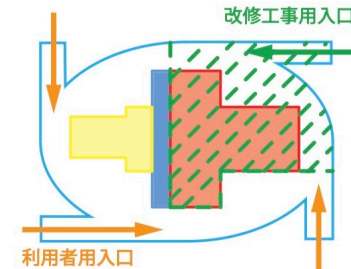
イニシャルコスト削減のため基本設計の初期段階から積算及びコストコントロールをすることで効果の高い基本設計期間でのコスト管理・VEの提案を進めていきます。また、敷地は良好な地盤であることから、できる限りオープンカット工法を採用し、地下階高が必要な部分を建物中央に配し、外周に向かって掘削を抑えるすり鉢形状の床付レベルに計画することで、掘削量を抑え、山留も最小化することによりコストに配慮する計画とします。

### ●将来の大規模改修を想定した設計上の配慮

#### 改修工事の際にエリアを分割

#### 中間領域のある大・小ホール

#### 工事利用可能な平場の確保



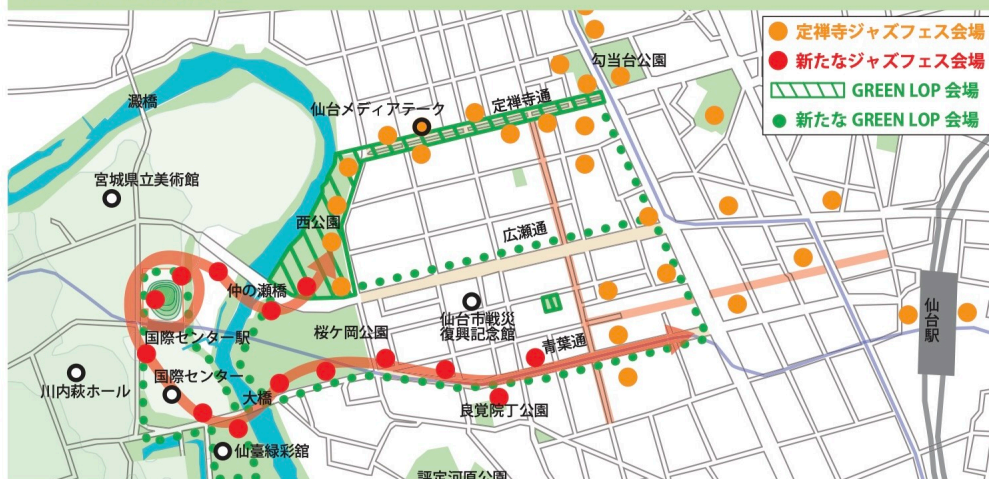
どこからでもアプローチできる建築であることから、大規模改修時には出入口を限定することで工事範囲を明確に分割し施設を閉鎖しないで工事を行うことができます。諸室はホワイエなどの動線の広場を介して配置しているため、施設利用者動線と工事業者動線を明確に区分でき、運営管理しやすい計画とします。

ホールの大規模改修時には施設全体が閉鎖しないように大・小ホールを順番に改修することで、施設を利用しながら各ホールの大規模改修ができるような計画とします。その際に大ホール舞台と小ホール舞台の間にあるバッファースペースを利用することで、大規模な安全や遮音対策の大規模仮設を削減できる計画です。

敷地内の屋外に十分な大きさの平場を確保することで、大規模改修時には仮設の事務所やクレーン等の重機ヤード、工事に必要な資材の一時保管場所に使える計画としました。災害時には平場を応急の仮設トイレなどに有効活用できるため臨時的防災拠点としての役割も期待できます。

## ●設計を進める上で特に留意すること 《地元仙台の設計事務所も設計チームに加えることで、杜の都「仙台」がもつ多種多様な魅力を読み解き、都市の魅力を増幅し解き放つ建物を計画します。》

### イベントの増幅装置



仙台五大まつりをはじめ、GREEN LOP SENDAI や常禅寺ジャズフェスティバルなど市民が率先して行う新しいイベントも行われている。このような様々な既存イベントを計画建物まで導くことで、新たな会場の一部となると同時にイベントを増幅して街に還元する。これにより既存イベントをより大きなイベントとして広げる役割を持つ建物を目指します。



### 緑道の結び目

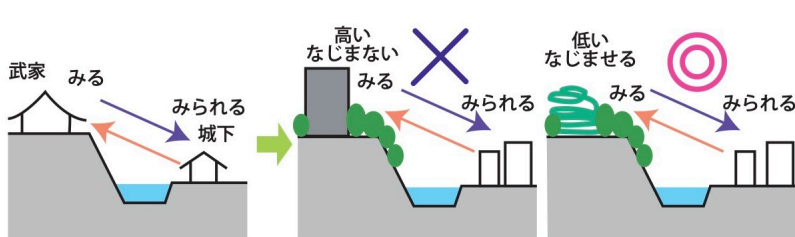


仙台市は、常禅寺通・広瀬通・青葉通の大きな緑道とそこから伸びる様々な緑道により、「杜の都」と呼ばれるほど豊かな自然に恵まれています。緑道を散策する人々が計画建物に集うと同時に街へと広がっていくよう、緑道の一部のような建物を計画することで、様々な緑道をつなげる「みどりの結び目」としての役割を目指します。

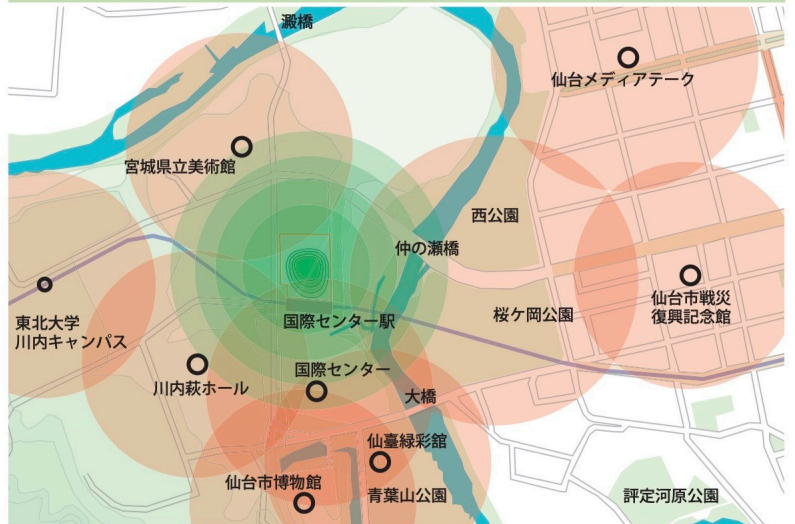


### 青葉山エリアの風景になじむ建物

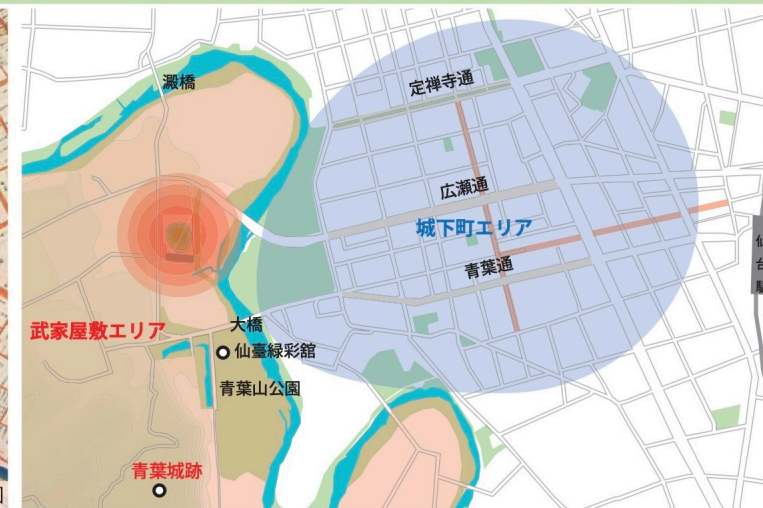
伊達政宗は、仙台城から広瀬川を挟んだ対岸の河岸段丘上にある大名小路に沿って、重臣の侍屋敷を配置していました。また、青葉山に築城された本丸には、城下を一望できる御懸造をしていました。ここに広瀬川を挟んで仙台城から城下を見る、また城下から仙台城が見られるという「見る／見られる」の関係がありました。計画建物は「見る／見られる」の関係を継承しており、城下から見られることに対して丁寧な対応が必要となります。そこで緑を纏い、なだらかな地形のような建物とすることで、青葉山エリアの風景になじむよう計画します。また、敷地は以前の武家屋敷エリアと城下町エリアの境界線上に位置しているため、各エリアの人々の交流の場となる計画建物を目指します。



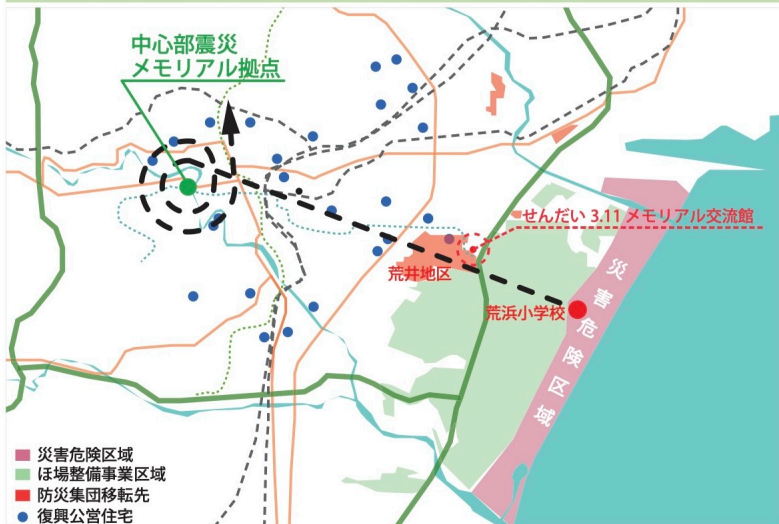
### 青葉山エリアの文化施設と「めぐる広場」



青葉山エリアは、宮城県美術館、仙台市博物館、国際センターなどの文化施設と大学や研究機関など、教育・研究施設が集まるエリアです。このエリアに音楽ホールとして新たな文化施設を追加するだけでなく、「めぐる広場」の機能をもった建物を計画することで、点在する文化施設の連携を計り、結節点としての役割をもつ建物を目指します。



### 災害の遺構と記憶、そしてクワイエットスペースへと至る



震災の記憶を後世に伝え、防災意識を高めるために残された「荒浜小学校の遺構」や荒井地区に作られた「せんだい 3.11 メモリアル交流館」をめぐり、訪れる中心部メモリアル拠点は建物内をめぐりながら震災の記憶を見学することが可能な建物とします。また、災害の記憶をめぐった終着点にあるクワイエットスペースは、広瀬川越しに市街地を一望でき、被災者への追悼や地域の復興への誓いを象徴し、地域社会の絆を強める役割も果たします。